

「本気でチャレンジ みんなで笑顔」

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から

4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今年度の「教科に関する調査」は、国語・算数の2教科で実施されました。「質問紙調査」は、生活習慣や学習状況などに関する質問があり、タブレットで回答しました。

学校では、調査結果を分析・考察し、日々の授業改善を進めるとともに、教育活動がより効果的なものとなるよう生かしていきます。各家庭でも、子どもたちの学力を共に伸ばしていけるよう御協力をお願いいたします。

Ⅰ 教科に関する調査結果

国語・算数の正答率を県平均、全国平均と比較し、設問による得意不得意を分析しました。下記の報告はあくまでも平均値をもとに評価を出しています。お子さんの結果はそれぞれ個票で御確認ください。

(1) 【国語】  ※表の見方 ◎…正答率が平均を上回っている ○…正答率が平均とほぼ同等 △…正答率が平均を下回っている

	教科全体	言葉の特徴や 使い方等	情報の扱い方	我が国の 言語文化	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
全国	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎
県	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎

国語では、多くの内容で、正答率が県・全国の平均を上回りました。長い文章でも、文脈を考えて読んだり、場面や相手に応じた話し方や聞き方を意識したりすることができるなど、国語科の基礎となる知識や技能、また、読んだり話したりするときに必要な思考力、判断力、表現力が身についてきていると言えます。

その一方で、「書くこと」については、課題が見えました。書き表すことの条件を押さえ、それに合わせて考えたことを整理し作文することに苦手さが見られました。アンケートでは、調査中の解答時間が短かったと答える子ども一定数おり、文章を組み立てたり、言いたいことを端的な文章で表現したりすることに時間がかかってしまったことが考えられます。根気強くじっくり考えることを大切にすると同時に、素早く処理する力を伸ばしていくことも大切です。毎日の授業や宿題についても、限りある時間の中で、自分の考えが伝わるように書いたり、書いた文章を読み直して推敲したりすることを意識させていきたいです。

(2) 【算数】  表の見方 ◎…正答率が平均を上回っている ○…正答率が平均とほぼ同等 △…正答率が平均を下回っている

	教科全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国	○	○	○	△	◎
県	○	◎	◎	△	◎

算数では、全体としては、県・全国の平均とほぼ同等の正答率となりました。内容を見ていくと、「データの活用」に関する問題での正答率は高く、数値を整理したりグラフから必要なことを読み取ったりする力が定着していることが分かります。一方、「変化と関係」いわゆる「速さ」に関する問題での正答率は、平均を大きく下回りました。速さと時間と道のりの関係や、何をもとにして比較するかということの理解が不十分であることが考えられます。全体として、基本的な知識や技能は概ね身についていますが、それらを活用して問題を解決する思考力や判断力、表現力に課題が残ります。公式を覚え、それに合わせて立式するだけでなく、なぜその公式に当てはめるのか、答えの数値は何を示しているのかなど、単に式と答えを求めることに留まらず、理由を説明したり深く考えたりする経験を積んでいくことが重要だと言えます。

(3) 横地小の今後

各教科等の学習をはじめ全国学力学習状況調査では、文章の読み書きや言葉の理解などの国語の力が、様々な学習の基礎となり、学力を支える大きな力となります。国語の正答率が高い横地小の実態は、今後、算数を含めた様々な学習に結びついていくことで、可能性が広がることを意味しています。自分の意見を適切な言葉で伝えたり、友達と意見交換しながら多様な考えに触れ、正解を求めたりするような学習活動を今後も大切にしていき、横地っ子の学力がより向上していくよう、職員一同、授業改善に努めていきます。また、御家庭でも、個々の学習の成果と課題を見つけ、課題を克服するような家庭学習の工夫ができるよう、引き続きのサポートをお願いいたします。



2 質問紙から見える調査結果

質問紙調査の結果を全国や県と比較することで、横地小の子どもたちの傾向が分かります。調査対象となった学年の特徴もありますが、よさと課題を共有し、学校でできること・家庭でできること・地域でできることを一緒に考えていけたら幸いです。

(1) 自分自身について

◎自分にはよいところがある ◎夢や目標をもっている ◎困っている人を進んで助ける

横地小の子どもたちは、自分のよさを理解し、自分や周りの人を大切にしているという意識が高いことが分かりました。御家庭で、子どもたちのよさを認め、励まし、前向きな言葉かけをしてくださっていることと同時に、学校での本気カードやなかよし班活動など、自己有用感を感じられる機会を設定していることの成果だと考えられます。

(2) 学習・読書の様子について

◎友達や周りの人の考えを大切に、互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる。

◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。

▲土日など学校が休みの日にどのくらい勉強をしているか。

→1日2時間以上している子の割合が県、全国を下回りました。



学習に関する多くの項目で、肯定的な回答が見られました。その中でも、県や全国を大きく上回っていた項目は、上記◎です。授業でも、友達との意見交換や討論を楽しむ様子が見られます。また、自分と違う考えであっても、どうしてそう考えるのかを聞いたり、自分の考えと比較したりして、新たな考えを構築するような場面もあります。多様性を受け入れ、尊重し、理解し合おうとすることは、未来を生きる子どもたちにとってとても大切なことです。学校が休みの日の学習時間については、県や全国と比較して短い傾向にありました。学習時間と学習成果には、相関関係があることが分かっています。今後、休みの日の学習時間の在り方について、お子さんと話し合ってみるのもよいですね。

(3) 人・地域とのかかわりについて

◎学校に行くのは楽しいと思う。

◎地域や社会をよくするために何かしてみたい。



横地小では、「ふるさと横地を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども」を育成するため、様々な学年で、地域に学ぶ体験授業を行っています。これは、熱心な地域の方々の協力のおかげで成り立つ教育活動です。今後も、地域の方々の協力を得ながら、クラス・学校・地域のために自分には何ができるか考え、ふるさと横地を愛し、そこに生きる自分のことも大事に思う心を育てていきます。